

農村女性がつなぎ・かがやく 滋賀の「食と農」魅力発信事業【滋賀県】

総事業費	3,159 千円
交付金額	1,579 千円

地域の実情と課題

- 近年、新型コロナウイルス感染症の影響により、「人のつながり」の大切さが再認識されるとともに、都市部において新しい生活様式や消費スタイルが浸透し、田園回帰など農業・農村への関心が高まっている。
- 一方、滋賀県では農業従事者の減少や高齢化により、農村地域での活動が弱まりつつあり、コロナ禍を経てその傾向がさらに進むことが懸念されている。
- また、農業・農村の活性化には女性の力が重要であるが、本県の農業・農村における女性の参画は十分とは言えない状況である。

目的・目標

【目的】

農村女性と都市部の消費者がつなぎ、「食と農」の魅力を発信し、共感するファンを創出し、縁が生まれ、そのファンの拡大が農村女性のさらなる活躍につながることで、農村女性、本県農業・農村がかがやくこと。

【目標】

セミナーと現地ツアーの参加人数 120名（結果：R5年度末 約88名）
事業を通じて新たに農村女性のコアなファンとなった人数 40名（結果：R5年度末 19名）

事業の特徴

- ①SNS等による情報発信・・・事業公式Instagramで農村女性に関する情報を発信し、食や農業に関心のある都市部の消費者に滋賀の農村女性について知る機会を提供することで、②③のイベントの参加者となつなぎを維持することができる。
- ②セミナー・・・農業や食に関心のある都市部の消費者を対象に、農村女性の活動内容を伝え、農村女性への共感や活動を応援する気持ちを醸成することができる。
- ③現地ツアー・・・セミナーの参加者が農村女性の活動現場を見学し、日々の作業を体験することで、農村女性とのつながりが深まりファンになってもらうことができる。

連携団体

しが農業女子100人プロジェクト

事業の効果

- セミナーと現地ツアーには計88名が参加し、各回ごとに実施した参加者アンケートでは、満足度97%、女性農業者への興味・関心度約96%であった。
- 現地ツアー参加者の約86%が女性農業者と個人的に連絡を取りたいと回答された。
- セミナー・現地ツアー後に、参加者が女性農業者と個人的に連絡を取ったり、商品を購入したりされている。また、「再訪したい」などの声も聞いている。

今後の課題

○女性農業者のファンとなった消費者のうち、セミナー・現地ツアー後も女性農業者と継続してつながりを持っている者の割合を高める工夫が必要である。

農村女性（6名）

SNSを活用した魅力発信

セミナー

東
近
江



野菜と旅する
松本真実氏



もみじ農園
こんにやく工房
端信子氏

長
浜



百匠屋
清水多枝子氏

栗
東



はしりFarm
今岡智恵美氏

高
島



zund耕園
小野原文氏

守
山



あさやけファーム
岩崎優希氏

農村女性の投稿のリポストと事務局による発信を実施。



「食」と「農業」に関心のある都市部の消費者を対象に、滋賀の農村女性の魅力を知ってもらうセミナーを京都と東京で3回実施。

- 8月19日(土) Kolmio café 参加者 19名
 - 9月13日(水) コミュニティキッチンDAIDOKORO 参加者 31名
 - 9月23日(土) 外苑前アイランドキッチン 参加者 19名
- 計69名…①



現地ツアー

主にセミナーに参加した「食」と「農業」に関心のある都市部の消費者を対象とし、滋賀の農村女性の活動現場を訪れ、日々の作業等を体験する現地ツアーを3回開催。

- 10月9日(月/祝) 松本氏・端氏 参加者 5名
 - 10月22日(日) 清水氏・今岡氏 参加者 8名
 - 10月29日(日) 小野原氏・岩崎氏 参加者 6名
- 計19名…② ① + ② = 計88名

